

支援を必要とする児童への気づきを促し、組織的、継続的な支援につなぐための**「気づきチェックシート」を用いた見取り実践**

高松市立川添小学校 教諭 松田 周子

1 目的

昨年度の実践研究に引き続き、(1)全ての教師が、児童の発する小さなサインや兆候に気づき、気にかけて、すばやい対応につなぐことができるようになること、(2)その「気づき」から得られた情報を共有し、組織的かつ継続的な支援を行うためのしくみを整備すること、を目的とした。そのために用いた「気づきチェックシート」を、より利用しやすいものに改変することや、複数の教師で見るときの体制の整備、児童や保護者による指標と合わせたより精緻な見取りのあり方の検討など、昨年度の課題を踏まえ、実践研究を行った。

2 方法

- (1)「気づきチェックシート」を用いた見取り実践
- (2) 組織的・継続的な支援に向けた体制づくり
- (3) 児童や保護者による指標と合わせた見取りのあり方の検討

以上3項目について、実施した教員および児童へのアンケート調査と聞き取りから評価した。

3 結果・考察**(1) 「気づきチェックシート」を用いた見取り実践**

4月、7月、11月、3月(予定)の年4回実施。昨年度の課題を受け、実施者の負担をできるだけ軽減するために、チェック項目を7項目減らし、25項目とした。全学級で見取り実践を行い、「改めて子どもをじっくりと見取る機会になり、支援が必要な児童に気づけた」「普段からチェック項目を頭に入れ、気にかけて見ようという意識の向上につながった」など、肯定的な評価が多数得られた。

一方、タブレット端末など ICT を活用した入力方法も検討したが、本年度はできなかった。

(2) 組織的・継続的な支援に向けた体制づくり

1週間程の見取り実践の後、特別支援学級担任や専科教員による見取りとも合わせて、学年団で情報共有を行う場を設けた。自分の学級だけでなく、学年団の子どもの状況を知り、様々な教員が声掛けをすることにつながり、専科教員によって、学級担任には見せない姿が見取られることもあり、子どもの見方が広がった事例が挙げられた。さらに管理職、養護教諭とも情報共有することで、教育相談に活かしたり意図的な見守りにつながったりした。

(3) 児童や保護者による指標と合わせた見取りのあり方の検討

5年生の児童には、「心の天気」と称し、Teams の Reflect 機能を使って、毎朝の気分を各自のタブレット端末で回答させた。名前を伏せた状態で互いの気分を確認できるようにし、「不安」「ストレス」などマイナス要素の回答があれば、互いに気遣うように助言し、マイナス要素の回答が続く場合、個別に担任からの声掛けを行った。合わせて、これまで7月と12月の2回実施していた児童に対するアンケートを4月にも実施し、「学校が楽しい」「困ったとき先生に相談できる」などの項目と比較することにより、子どもたちの実際の行動や態度の変化に現れていないか気に掛けて見られるようにした。「心の天気」への回答は概ね定着し、子どもたちも好意的に取り組んでいるが、子どもたち同士や担任からの声掛けにつなげる点では課題も見られた。

保護者からの指標については、7月、12月実施の「学校評価アンケート」による回答を参考にしたが、半数程度の回答しか得られず、効果的な支援には活かせなかった。

4 成果

(1) 「気づきチェックシート」で示した項目が児童を見取る際の手がかりになること、教師の意識の向上につながることで、学年団で情報共有をすることにより、協働体制や見取りの意識が高まること、などが示された。特に、専科教員による見取りは、担任とは異なる視点のものもあり、児童理解に有効であった。

(2) 「心の天気」の導入により、児童自身が今の心理状況を把握し、コントロールしたり、それを発信することにより安心感を得たりしていることが分かった。また、回答状況によって担任が気に掛けて見守ったり、声掛けをしたりする支援にもつながった。

5 課題

「心の天気」の導入は一定の成果が得られたものの、タブレット端末を忘れた児童が回答できなかつたり、担任が朝一番にチェックすることに負担感を感じたりするなど、即座に支援へ活かすことには課題も残った。「気づきチェックシート」や「心の天気」実践の簡易化を図るとともに、児童や保護者からの回答も、気になった時に誰もがいつでも入力したり、3者の指標を合わせて見たりできるようなシステムの構築が急務である。